

ちば里山カレッジ実施報告書（3）

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第3回講義&フィールド研修 「森林・里山についての知識の修得1」
日時	平成26年8月23日（土） 10:00～16:00
場所	千葉県農林総合研究センター森林研究所 講堂&森林
出席者	受講生35名（欠席3名）・主催者3名・スタッフ1名 講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 所 長 鶴見 治 主席研究員 福島成樹
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8:10 新鎌ヶ谷駅集合 バスにて山武市にある千葉県農林総合研究センター森林研究所へ移動 ・ 10:10 予定時刻より10分遅れで開講。福島講師により午前中に次の講義を受講。 *「千葉県の森林と里山の特徴」 千葉県にはもともとは杉・ヒノキはなかったがバブル期に人工林を増やしたこと。しかし、木材の輸入がすすみ価格的に立ち行かなくなり、かつての森林業の状態とは程遠く、後継者がいなくなってしまった。松くい虫や杉の立ち枯れ病などの問題が発生したこと、森林センターでの研究の状況など。千葉県の里山の特徴やボランティアの活動内容などの講義。 *「里山の管理技術 広葉樹林」 広葉樹林の成り立ち、昔の里山形態のときの手入れや萌芽更新が今はないこと、どのような整備・保存が必要かなどの管理方法を学んだ。 ・ 12:10 昼食 ・ 13:00 *「里山の管理技術 人工林・竹林」 人工林の植栽にはまず地ごしらえが大切であること。良い木を育てるには長い年月と枝打ちなどの手入れが必要であり人手がかかること。森林業についている方々の高齢化・後継者不足等の問題がある現状などの講義。 竹林については身近な問題のためか関心があったようだ。竹林の整備について、特に広がりすぎないようにするにはどのような方法があるかなど、講義内容は専門的にかつ初心者にもわかりやすく進められ、質疑応答も活発に行われ、熱心に学んでいた。 ・ 15:00 フィールド研修：研究所森林内 見学研修 心配された雨もあがり、豊かな森林の中を歩いて説明を受けた。 木を観察・研究するには長い年月がかかることであり、予想できないこともある。植え方や整備によってどのような結果が得られるかなどのデータどりが大事である。 現在、花粉が少ない杉やヒノキの育成をしている若木の様子も見学した。 ・ 16:00 バスで新鎌ヶ谷駅に向かい解散

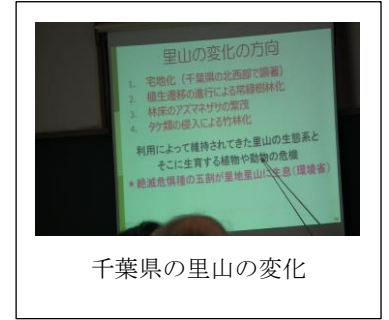
添付資料（写真）



鶴見所長のご挨拶



福島講師による講義



千葉県の里山の変化



質疑応答



広葉樹林とはどんな森？



広葉樹林の整備について



人工林について



センター内の森林見学



手入れされている



大きな松



列状植栽



約3年かけて竹を取り除くことに成功した後に生えた木々



花粉が少ない杉を造り出すために交配して育てている



質疑応答